



礼儀ある人間関係の出発はお互いの「呼び方」から

子供たちはお互いに、様々な呼び方で呼び合っています。その中で、今回は「呼び捨て」について、私の考えを述べます。

「おい、はなこ!」「おい、山田!」・・・これを、親しさの表れと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、小学校教育の場では、望ましいことではありません。

子供たちは学級という公的な集団の中で、社会を構成する一員としての責任や、相互の人間関係の在り方について、日々の学校生活を通して学んでいきます。これは、各教科の学習と並んで、学校教育の大きな目的の一つです。

学校として、最も注意深く観察し、決して目をそらしてはならないのが、閉鎖的で固定化した集団の中での、子供たち相互の人間関係です。公的な社会訓練の場としての学校(学級)の中で、特に基礎的な小学校の段階で、「呼び捨て」には以下のような問題を感じています。

- * いつの間にか、呼び捨て以外の一般的な呼び方ができなくなっている場合がある。
(公的な使い分けはもちろん、意識しても、敬称や子どもらしいニックネーム等を使うことに抵抗を感じて、呼ぼうとしてもできない。=ゆがんだ習慣)
- * 呼び捨てにする場合、他人としての礼儀や相手に対しての配慮が感じられないことがある。
(親しいつもり・優越感・軽蔑・相手の気持ちにはお構いなし・・・)

学校という偶然に集まった集団の中で、お互いが個人として尊重し合い、お互いの存在を認め合い、他人としての礼儀をわきまえながら平等な人間関係を築き、その上で、協力し合い、励まし合いながら、お互いに思いやりを持って一人一人が心から安心して生活できる環境(社会)をつくっていくことが私の願いであり、責任でもあると思っています。

呼び捨て自体がお互いに納得したニックネームになっている場合もあり、それを画一的に注意することはできないとは思いますが、もちろん、将来大人になったときの親しい友人同士での呼び捨てに問題は無いと思いますが、小学生の発達段階で、間違った習慣がしみついて、どうしても敬称や親しみを込めた(相手が嫌がらない)ニックネームで相手と呼ばなくなっている児童がいる場合には、納得を促しながら、少しずつでも意識してもらえるように声がけてまいります。

また、親しみを込めたつもののニックネームやあだ名も、時として人を傷つけていることがあります。私の小学校の時のあだ名は、一時「ぶらこうじ」だった時期がありました。国語の授業で、古典落語(前座噺)の「寿限無」を習った後のことでした。周囲は親しみを込めてそう呼んだのですが、私は嫌な気持ちだったことを思い出します。(ポンポコピーや長助なら、まだよかったです・・・)

「いじめ」と同様、悪気はなくても相手を不快にする言動には注意が必要です。私自身も、その都度相手がどう感じるかを想像して気を付けていかなければならないと、改めて感じています。

寿限無、寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の 水行末 雲来末 風来末
 食う寝る処に住む処 藪ら柑子の小崎 功二 (藪柑子・ぶらこうじ)
 パイポ パイポ パイポのシューリンガンシューリンガンのグレーンダイ
 グレーンダイのポンポコピーの ポンポコナーの 長久命の長助

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年9月17日 ()年 ()組 児童氏名